

【スペインの夏祭り「セマナ・グランデ」】

太陽のまぶしい季節。夏休みといえば花火を想像する人も多いのではないのでしょうか？丸亀市でも8月22日には、まるがめ婆娑羅まつりの花火大会が開催される予定です。

日本では夏といえば、夏祭り、花火をすぐ連想しますが、実は姉妹都市スペイン・サンセバスティアン市でも毎年大きな夏祭りが開催されています。

8月中旬ごろ開催されるサンセバスティアンの夏祭り「Semana Grande (セマナ・グランデ)」では1週間にわたって色々な行事が行われ、街は文字通り「大きな一週間」(Semana=週 Grande=スペイン語で「大きい」となります。多くの人々が催しを見ようと街へ繰り出し、大混雑となるのです。

2015年のセマナ・グランデは8月8日に幕を開け、翌週15日まで続きますが、その間、花火コンクールやサッカートーナメント、ダンスパフォーマンスなど様々なイベントを街中のいたるところで楽しむことができます。

日本の夏祭りと共通する部分も多いのですが、このセマナ・グランデの中では「Gigantes y Cabezudos ヒガンテスとカベスドス」という巨大な人形が登場します。これは日本では見られない光景ですが、スペインをはじめラテン文化圏の祭礼ではおなじみのものなのです。

Gigantes (ヒガンテス=英語発音ではジャイアンツ)は「巨人」を意味する高さ数メートルの人形です。胴体部分に人が入ることができ、中から人形を持ち上げ中空に浮かせます。マーチングバンドがそばで音楽を演奏し、その曲に合わせて人形は手を振ったり踊ったりします。通常は男女2体がペアになりますが、そのキャラクターはキリスト教以前の神様や王族、貴族などがモチーフとなります。

もうひとつのCabezudos (カベスドス=大頭のかぶりもの。スペイン語でcabeza カベサは「頭」)は、衣装を着た人がそのままかぶる大きな頭の人形です。カベスドスにもいろいろなキャラクターがありますが、人間の外にも怪物や竜など、恐ろしげな風貌のものもあり、こうした夏祭りの行列ではヒガンテスと一緒に街を練り歩き、ピエロのような役割を果たします。

セマナ・グランデはバスク語では「Aste Nagusia (アステ・ナグシア)」と呼ばれ、サンセバスティアンだけでなく近郊の街ビルバオでも開催されます。夏休みシーズンにスペイン、バスク地方を旅行する機会には、ぜひこのセマナ・グランデを楽しみたいものですね。



【ヒガンテスの行列】



【ユーモラスなカベスドス】